［アジテーション−相互影響］
風が吹けば桶屋が儲かるという言葉があります。
風とはなんでしょうか。風とは我々の行動一つ一つではないでしょうか。
桶屋が儲かるとはなんでしょうか。桶屋が儲かるとは、我々の行動がもたらす思いがけない結果ではないでしょうか。
この言葉は正に、我々の行動と、社会の関係を表しているのです。

そして行動の結果は思いがけず、他者の利益を作り出すとは限りません。
・地域　遊具
・国内
地球温暖化を考えてみましょう。
二酸化炭素排出国の大部分を占めるのは、先進国です。
しかし、その影響を最も受けているのは、先進国ではなく、資源を持たない小国である、ツバルです。海面の上昇によって、ツバルの国土が消えていき、元々住んでいた住民は従来の生活を続ける事が困難になっています。
なぜ、全く二酸化炭素排出していない国々が、先進国が起こす地球温暖化の悪影響を受けねばならないのでしょうか。

「宇宙船地球号」という言葉があります。
地球の資源は有限であるということを、宇宙船に例えて表現した言葉です。
そして、人間はみな一様に「地球」という宇宙船に乗っています。
我々は、みな同じように船の影響を受けているのです。
これは、少なくとも我々にとって、変え難い一つの事実なのです！

同じ宇宙船地球号を生きているのにも関わらず、
一部のメンバーに、その船の進路が勝手に決められていいでしょうか。
メンバーによって船の進路が選択されなければなりません！
では、選択において頼れる羅針盤は、果たして、あるのでしょうか。

［現代情勢のネガティブ］
我々の今後の生き方の選択肢を模索していきましょう。

我々はどのように生きていけばいいでしょうか。
それは、
力による争いでしょうか。
伝統的なものに固執した生き方でしょうか。
他者との関わりを断って生きていく事でしょうか。

⑴力による争いを考えてみましょう。
（具他例）

決着は力でしょうか。
力による支配で、排除・抑圧された人々はどうなるでしょうか。
それは果たして許されるでしょうか。

⑵伝統的なものに固執する生き方を考えてみましょう。
伝統的なものとはなんでしょうか。
習慣に始まり、宗教的進行、民族や国民などもその類いです。
昨今では、新ナショナリズムや、民族主義の運動が起こっています。
それは過激な排斥運動にもつながっています。
「人間は自分自身の歴史を創るが、しかし、自発的に、自分で選んだ状況の下で歴史を創るのではなく、すぐ目の前にある与えられた「過去」から引き渡された状況の下でそうするのである」
カール・マルクスの言葉です。
人間はどうしても過去の蓄積を見てしまいます。そして、往々にして、過去を頼ろうとするのです。
けれど、元々そうであったもの、長く続いたものが、なぜ正しいなどと言えるのでしょうか。
既存のレールの上での選択ではないでしょうか。

⑶他者との関わりを断った生き方を考えてみましょう。
それこそ、無人島で、１人で。
怖くはありませんか。

「非社交的社交性」という言葉があります。
カントはこの言葉で、人間が他者と争う傾向を持ちつつも、同時に他者との関わりも必要とする傾向も持っている事を表しました。
友人と喧嘩したことはないでしょうか。けれども、思い出してください。あなたの周りにいる友人。けれども、あなたは彼らと仲良くなったのでしょう？
無人島で１人孤独に生きていくことはできますか？
想像してみてください。
あなたは､無人島で１人孤独に生きていくことは出来るでしょうか？　たとえ、生きる事ができても、あなたはその孤独に耐えることが出来るでしょうか？
我々は他者を必要とします。同じ空間で、他者と過ごす。
社会で生きていくことを求めるのです。

では我々はどのように生きていけばいいでしょうか。
頼るべき羅針盤は、我々自身で作り出していかねばなりません。
~~１人１人の生き方を守るには、共存を考える必要があります。~~
~~共存とはなんでしょうか。単純にみんなが生かされていればいいのでしょうか。~~
~~宇宙船地球号のメンバーはどんな構想でしょうか。~~
~~どのように共存すればいいのか。~~
~~選択しなければなりません。~~

人間そのものを考えてみましょう。
近代では「基本的人権」という言葉が生まれました。
そんなチンケな言葉を使う必要はありません。
そんな矮小な言葉で人間は表せません。

あなた方は人間をどう捉えていますか？
知ってる人を挙げていきましょう。
身近にいる家族、友人、恋人、隣人、さらには、日本人、外国人。
もちろん既に知ってる人だけはありません。未だ見ぬ他者もいるのです。
人々はそれぞれが、異なった存在です。それだけでありません。新しい考えだったり、行動だったり、可能性をもたらしてくれます。

人には独自性があるのです。
ハンナ・アレントは人間の特徴を「唯一性、ユニークネス」と表現しました。
一人一人がそれぞれ特別でかけがえの無い存在であるのです。

まだ見ぬ他者を知りたいと思いませんか。
特定の人を異常と判断しますか？では人間の正常とはなんですか？
「汝、隣人を愛せ」という言葉があります。しかし対象は限定的ではありません。隣人に留まりません。「汝、人を愛せ」です。

愛するには、知る事が必要です。
他者の考えが自分と同じことはないのです。
推測だけでは足りません。
それもまた自分の勝手な認識です。

では、そのような人間の中で、とるべき今後の進路はどのように決定されればいいでしょうか？

［対話］
では、我々が最も必要とするものは何なのでしょう？
それは継続的な対話という営みです。
対話とはなんでしょうか。
それは、物事に対して、人々が本音で話し合い、それぞれの認識を交換し合う、これが対話ではないでしょうか。

対話をするにはどうすればいいでしょうか。
⑴「聴こうとする態度」
　人は誰しもかけがえの無い存在です。だからこそ、それぞれがどう考えてるか、に興味を持ち、尊重し、配慮しなければなりません。
⑵「語りかける態度」
　自分の本音を、勇気を持って話しかけなければいけません。

このような対話は私が次の結果をもたらします。
⑴自分と他者の認識の差異が明らかになる
　自分の認識が、普遍的でなく、一つの認識でしかないことがわかります。
　自分を相対化することができます。
　つまり、自分の考えが「絶対」でないとわかります。
　だからこそ、他者と比べて何が「特徴的」なのかを把握し、吟味していくことにつながります。

そしてこのような対話をしてこそ、我々全員の今後の進路が決定できるのです！

［対話の困難点］
無論、対話には困難な点があります。
⑴対話の拒否
対話そのものを拒否する人もいるでしょう。
他者が応答を拒めば、対話は成り立ちません。
そのために、積極的な呼びかけが必要となります。
呼びかけ、自らへの興味を持ってもらう。このような対話への触発が必要となります。
例えば、

これら対話の触発が蓄積されていくことで、より対話の可能性が向上していくことになるでしょう。

［汝、自身を知れ−自身の相対化］
そしてこのような対話によって、自身を見つめ返すことを繰り返していくことが必要です。
このような対話がない状態では、〜〜が失われるからです。

冒頭で、生活における選択を述べました。
しかし、選択はそれらに留まりません。

我々のこれからの生き方もまた、選択を迫られています。
選択肢の中に、絶対はありません。
頼るべき羅針盤は、自身で作り出していかねばならないのです。

「汝、自身を知れ」という言葉があります。
古代ギリシアのアポロン神殿の入口に刻まれた格言です。
この言葉は何を命じているのでしょうか。
自分自身を理解せよ、と言いますが、そのためには他者との差異を認識しなければなりません。
つまり、結局のところ他者をも理解するということです。
他者を理解するには対話を必要とします。
対話の上で、我々は選択を迫られています。
羅針盤がない中で、選ばなければなりません。
求められるのは、１人ではなく、我々の選択です。
将来は白紙です。困難な中で我々の将来を選ぼうではありませんか！
「汝、自身を選べ」